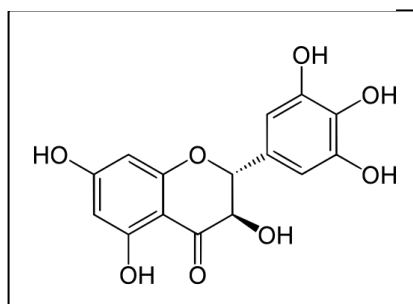


藤茶エキスパウダー 40%

藤茶



アンペロプシン



藤茶は日本ではまったくなじみがございませんが、中国広西省に住むパオ族には毎日飲んでいるお茶です。このバーマ族には病気がなく、老人は老衰で死んでく不思議な土地柄です。バーマパラドックスとでもいいましょうか。茶といっても 藤茶 *Ampelopsis gossedentata* の葉です。高血圧、高脂血症、血糖値、尿酸に効果があるといわれています。

藤茶にはアンペロプシン(ジヒドロミリセチン)が大量に含まれており、このエキスにはこのジヒドロミリセチンが40%以上の規格としております。このアンペロプシンはほかにも、ケンポナシ、コントルタマツ、カツラにも含まれています。

アンペロプシンは、GABA_A 受容体に結合します。マウスにアルコールを投与したのちにアンペロプシン体重あたり 1 mg/kg の用量で投与すると、明確により速く鎮静化することが分かっています。

またアルコール離脱症状を促進する可能性が示されています。

飲酒の解毒、アルコール中毒の治療に応用できる素材です。

投与された成分量の範囲では、実験動物にアンペロプシンによる毒性作用が引き起こされた兆候はありませんでした。

マウスでの様々な研究の結果、アンペロプシンには肝臓保護作用があるとされている^{[1][2][3]}。ケンポナシ抽出物は 2008 年、韓国の食品医薬品安全処によりアルコール依存症患者の肝臓再生について認可されました。500 年以上前から知られています^[4]。

他にも2018年アンペロプシンとキトサンで機能性表示食品「尿酸サポート」が届け出されました。アンペロプシンは尿酸合成、尿酸排泄作用があるといわれています。医薬品であればザイロリック、フェブリク、トピロリック、ウリアディック、が合成阻害作用、ユリノ

ームが尿酸排泄作用です。なんとこの両方の作用を持っているのがこの藤茶エキスとなります。

一日推奨量はアンペロプシンとして150mgとなります。

1. [△](#) K. Hase, M. Ohsugi u. a.: *Hepatoprotective effect of Hovenia dulcis THUNB. on experimental liver injuries induced by carbon tetrachloride or D-galactosamine/lipopolysaccharide.*
2. [△](#) H. L. Fang, H. Y. Lin u. a.: *Treatment of chronic liver injuries in mice by oral administration of ethanolic extract of the fruit of Hovenia dulcis.*
3. [△](#) T. Murakami, M. Miyakoshi u. a.: *Hepatoprotective activity of tocha, the stems and leaves of Ampelopsis grossedentata, and ampelopsin.*
4. [△](#) D. Mitchell: [Chinese Herbal Hangover Remedy May Fight Alcoholism](#). In: EmaxHealth. Abgerufen am 9. Januar 2012.